



好色萬金丹
五卷

特別
^ 13
1478



門へ 13
478

13

好む之方金丹巻之八

中一見ぬゆら

井田屋利権門

赤いこまの

馬の尻奥乃伊志志乃日僕ひやくのいまのいよそわが一生
國のあのみね平治が一板のいあ中よそはあま日本
卒いそ余引いそとのそび廻國いそしてむらむらもはるるあ
もあまのく見むびくろのあそらく今代はあま
がやうあまのあまのそとぞあまあまのあまのあまのあ
あひの甲あまあまのあまのあまのあまのあまのあまのあ
あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあ
のあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあ
あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあ



よ得^{ひら}まよせんとあてて難^{かた}儀^ぎなるおろしきやうに
 のうらゝりていゝまゝに出入ありてはよのぢいあまこと
 ついでにまゝしつゝそつとついでよ^はも^は裁^はり^た
 おまよ^{あま}り^いお^まあ^いけ^いけ^いの^まね^ん
 そつとついでにまゝしつゝそつとついでよ^はも^は裁^はり^た
 まるくおま^いり^てお^まあ^いけ^いけ^いの^まね^ん
 苑^いの^まね^んの^まね^んの^まね^ん
 が^いの^まね^んの^まね^んの^まね^ん
 ま^いの^まね^んの^まね^んの^まね^ん
 や^いの^まね^んの^まね^んの^まね^ん
 む^いの^まね^んの^まね^んの^まね^ん

ろうあゝの^まね^んの^まね^んの^まね^ん
 ての^まね^んの^まね^んの^まね^ん
 そ^いの^まね^んの^まね^んの^まね^ん
 う^いの^まね^んの^まね^んの^まね^ん
 け^いの^まね^んの^まね^んの^まね^ん
 見^いの^まね^んの^まね^んの^まね^ん
 う^いの^まね^んの^まね^んの^まね^ん
 つ^いの^まね^んの^まね^んの^まね^ん
 よ^いの^まね^んの^まね^んの^まね^ん
 や^いの^まね^んの^まね^んの^まね^ん
 む^いの^まね^んの^まね^んの^まね^ん

うらまゝにねはありてぬまをば一服ぞのびんせしむらゝ
 一から祥はしむるしんさつはるるすくすくはるるの
 りしむるしんさつはるるすくすくはるるの
 はゆるせのちらばるるしんさつはるるの
 くれどそりしんさつはるるすくすくはるるの
 のゆるりしんさつはるるすくすくはるるの
 ちんさつはるるすくすくはるるの
 八月は髪とむらゝけしんさつはるるの
 らもこのはしんさつはるるすくすくはるるの
 もあゝびんつるる女番の茶湯とるるしんさつはるるの

役ぞらりしんさつはるるすくすくはるるの
 むらゝけしんさつはるるすくすくはるるの
 味増のしんさつはるるすくすくはるるの
 甲州梅のしんさつはるるすくすくはるるの
 りしんさつはるるすくすくはるるの
 とらばるるしんさつはるるすくすくはるるの
 られもあまのしんさつはるるすくすくはるるの
 じまゝしんさつはるるすくすくはるるの
 ろりもあまのしんさつはるるすくすくはるるの
 香のめめしんさつはるるすくすくはるるの
 らもあまのしんさつはるるすくすくはるるの

竹本義方書

おれは...
おれは...
おれは...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

^んたよくしのよらんんがらわらしの林をとりけら
 乃らのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのま
 乃らのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのま
 乃らのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのま
 乃らのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのま

元禄十丁丑年又月吉日

書林 大坂 伊丹屋太郎 齋門

Handwritten Japanese calligraphy on aged paper, likely a book cover or endpaper. The text is written in a cursive style (sōsho) and includes the characters 丹波 (Tamba) and 道 (Michi). The paper is heavily creased and discolored, suggesting significant age and wear.